

令和4年度(2023年度)第3回函館市地域包括支援センター運営協議会 会議録

- **開催日時** 令和5年(2023年)3月16日(木) 18:30~19:30
- **開催場所** 函館市役所8階 大会議室
- **会議内容**
 - 1 開会
 - 2 議事
 - (1) 地域密着型サービスの運営に関する事項
 - ア 地域密着型サービス事業者の指定等について・・・・・・・・・・資料1
 - (2) 地域包括支援センターの運営に関する事項
 - ア 第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について・・・・・・・・・・資料2
 - イ 令和4年度(2022年度)地域包括支援センター事業評価(国)について・・・・・・・・・・資料3
参考資料
 - ウ 令和5年度(2023年度)函館市地域包括支援センター運営方針について・・・・・・・・・・資料4
 - 3 その他
 - (1) 「福祉拠点」開設後の自立相談支援機関の相談状況について・・・・・・・・資料5
 - (2) 福祉のまちづくりフォーラムについて
 - 4 閉会
- **出席委員** (8名)
齋藤征人会長, 船橋優子副会長, 川村曜補委員, 渡部良仁委員, 柏原美之委員, 張磨仁委員, 村田亮二委員, 高森秀雄委員
- **欠席委員** (3名)
後藤琢委員, 二本柳美夏委員, 工藤晃士委員
- **地域包括支援センター** (10名)
あさひ 四戸管理責任者, こん中央 福島管理責任者, ときとう 長谷山管理責任者, ゆのかわ 佐々木管理責任者, たかおか 松野管理責任者, 西堀 吉田管理責任者, 亀田 常野管理責任者, 神山 酒井管理責任者, よろこび 澁谷管理責任者, 社協 高田管理責任者
- **傍 聴** 6名
- **報道機関** 1名
- **事務局** (8名)
(指導監査課) 渡辺主査
(地域包括ケア推進課) 小棚木課長, 伊藤課長, 岩島主査, 山岸主査, 石黒主任, 山下主任技師

○ 会議要旨

※の記載がある議事については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として会議時間を短縮するため、事務局からの説明を一部省略した。

1 開会

2 議事

(1) 地域密着型サービスの運営に関する事項

ア 地域密着型サービス事業者の指定等について (※)

齋藤会長

地域密着型サービス事業者の指定等について、特に説明すべき事項があれば事務局から説明願いたい。

渡辺主査

(資料1「地域密着型サービス事業者の指定等について」に基づき説明)

齋藤会長

事務局の説明について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

(2) 地域包括支援センターの運営に関する事項

ア 第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について (※)

齋藤会長

第1号介護予防支援事業および指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所の選定について、特に説明すべき事項があれば事務局から説明願いたい。

岩島主査

資料に記載のとおりであり、特に説明すべき事項はない。

齋藤会長

資料2について、意見・質問等はないか。特にないようなので、協議会として意見がないということで、次にまいりたい。

イ 令和4年度(2022年度)地域包括支援センター事業評価(国)について

齋藤会長

令和4年度(2022年度)地域包括支援センター事業評価(国)について、事務局から説明願いたい。

岩島主査

(資料3「令和4年度(2022年度)地域包括支援センター事業評価(国)」に基づき説明)

齋藤会長

事務局の説明および資料3について、意見・質問等はないか。現段階では特にないようなので、次にまいりたい。

ウ 令和5年度(2023年度)函館市地域包括支援センター運営方針について

齋藤会長

令和5年度(2023年度)函館市地域包括支援センター運営方針について、事務局から説明願いたい。

山下主任技師

(資料4「令和5年度(2023年度)地域包括支援センター運営方針(案)」に基づき説明)

齋藤会長

事務局の説明および資料4について、意見・質問等はないか。

川村委員

DV、ネグレクトの家庭を早期に発見することや、ヤングケアラーの問題については検討されていないか。

事務局

地域包括支援センターというところで、高齢者分野でのDV、ネグレクトについては検討しているが、ヤングケアラーに関しては、地域包括支援センターの取り組みと合う部分が出てきた場合に都度検討していくことになる。8050問題等の複雑・複合化した問題の課題として意識しながら取り組んでいく形になると思っている。

齋藤会長

一方で、福祉拠点の方は今の話は関係があるでしょうか。この運営方針は、従来型の包括の役割について重点取組事項を示したものですが、函館市の地域包括支援センターの自立相談支援業務を兼ねている地域包括支援センターの業務という視点で捉えると、今の川村委員のご指摘は重点的に取組まなければならないということによろしいか。

事務局

福祉拠点という事では、今年度から自立相談支援機関として拡充した経過があるため、そこを包括する形になるかと思う。

高森委員

P 7 (4) の中の「自主活動グループの数が増加する等の効果はあったが、既存の活動の場では、運営するリーダーの不足や参加者の減少による活動の縮小の問題に加え、コロナ禍の影響で活動を縮小・休止するグループもある。」とあるが、担うリーダーはどのような方だったのか、また、そこを解消するにはどのようにするという事を考えているか。

事務局

自主活動グループのリーダーは、町会役員等もいるが、高齢者だけの集まりなのでリーダーを担うのは高齢者となっている。高齢化でリーダーができなくなってきたという現状にあるため、新たな高齢者に参加していただき、その高齢者からリーダーを探すのもひとつだと思う。また、違った視点からは、ボランティアに興味のある方、くらしのサポーターも養成しているので、ボランティアをうまく活用しながら自主活動グループが継続・活発化するのいいと考えている。

高森委員

担い手がないことは存じ上げているが、そのような会があることを周知し、若い方も参加できる仕組みも大切だと思う。町会でそのような形で行っているので、町内会の若い方への周知、学生まで周知して学生ボランティアという形で入ってくるのもいいと思う。

播磨委員

全体をみての感想を発言させていただく。資料3の介護予防ケアマネジメントは、参考資料の結果まとめをみると、かなり網羅してやっていると感じた。地域包括支援センターは国から多くの業務を任されている中、これだけの業務をこなしているというのはとても頑張っていると感じる。運営方針は、地域を把握し、解決に向けて具体的な目標を作っているのは素晴らしいと思うと同時に、地域包括支援センターが専門的な業務を担っている相談機関へ繋げることで地域包括支援センターの負担が減るかと思った。

齋藤会長

先ほどの事業評価を踏まえた形での評価をいただいた。柏原委員いかがか。

柏原委員

評価結果をみると、これだけの項目に○がつくのは大変なことだと思うので、頑張っていると思う。「認知症初期集中支援チームとセンターの連携・調整が図られるよう、連携会議の開催や情報共有の仕組みづくりなどの支援を行っているか」とあり、○がついているところと、ついていないところがある。実際にどのようなことを行っているかお聞きしたい。

地域包括支援センターこん中央 福島管理責任者（認知症初期集中支援チーム 委員）

認知症初期集中支援チームは、認知症関連の相談を受け、医療や介護保険サービスに繋がたいが、それが難しく困っている方々の相談を受ける事業。相談が上がってくる時には、既に早

期の相談にないことが多いが、それをなるべく早くキャッチし、医療・介護・行政がチームを作り、6か月間で集中的に支援していく取り組みになる。×がついているのは、コロナ禍もあり医療体制がとれず、病院スタッフが訪問して相談に乗ることや、病院に繋がった時に行うチーム会議が病院の中で行われるため、コロナ禍で会議を開くことが難しいなどの状況が重なり、ケースをあげたいがあげられないという事が繰り返されてきた。ただ、地域包括支援センターと認知症疾患センターの連携が図られているのが函館の良いところで、初期集中支援チームに繋がなくても、通常支援によって支援ができています。初期集中支援チームを使わなくても支援ができていますので×の評価になっていると思う。

齋藤会長

×の評価の意味が分かったと思う。他にいかがか。

渡部委員

「地域の支援者や地域密着型サービス事業所の職員に対し、早期相談・早期対応の重要性についての周知を行う」と書かれているが、センターから支援者、センターから地域密着型サービス事業所という感じで、一方向しか読み取れない感じがするが、地域の支援者と地域密着のマッチング、繋げるという形も含まれているかお聞きしたい。

事務局

一方向に読み取れる表現になってしまったと思うが、一方向という認識ではない。

齋藤会長

狙っているニュアンスが伝わる表現にしていただけたらと思う。村田委員いかがか。

村田委員

特にありません。

船橋委員

住民がコロナ禍によって生活課題や福祉課題が重くなり、8050問題からヤングケアラー等の多くの課題があり、私達も様々な職種と繋がっていかねばならないと実感した3年間だった。それはこれからも続くと思うが、新たに様々な職種が繋がり共有し、地域に還元していかねばならないと感じた。人を引っ張り出すことは大変なことだが、少し若い高齢者を引っ張り出し、次に繋げることが重要と考える。地域包括支援センターは業務量が多いので、無理せず頑張っていたきたい。

齋藤会長

少し検討いただければと思ったのはヤングケアラーの部分で、地域密着型サービス事業所との連携の中に、虐待の早期発見などの文脈で内容を盛り込ませることができないかと思った。函館の地域包括支援センターの在り方は、自立相談支援機関の役割と分けて考えることもあつ

ていいと思うが、実際に抱えている課題としては重要なポイントだと思うので、可能であればそのあたりの内容を盛り込むなど、調整していただけたらと思う。

3 その他

(1)「福祉拠点」開設後の自立相談支援機関の相談状況について

齋藤会長

その他に関して、地域包括ケア推進課福祉拠点担当からの報告を、担当課長から説明願いたい。

伊藤課長

(資料5「福祉拠点開設後の自立相談支援機関の相談状況について」に基づき説明)

齋藤会長

ただいまの説明および資料5について、意見や質問等はないか。評価指標は運営協議会で適宜報告され、その報告を受けて質問したり意見させていただくことが、過渡的な段階における暫定的な評価になると思うので、報告があった時に質問や評価、コメントができるように我々も勉強していきたい。

高森委員

資料を見ると、相談内容が多岐にわたっており大変な作業だと思うので、今後も人員を増やすだとか、様々な専門の方々へ繋げて行ってほしいと思う。よろしくお願いします。

齋藤会長

他にないようなので、次にまいたい。

齋藤会長

続いて、地域包括ケア推進課からのお知らせについて説明願いたい。

山下主任技師

(令和4年度(2022年度)函館市福祉のまちづくりフォーラムについて説明)

齋藤会長

その他、予定している内容以外で皆様から何かあるか。

事務局、委員、センター

特になし。

(閉会)